

令和2年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

(課名： 河川砂防課)

事業名 (路河川等名)	河川整備交付金事業(総合流域防災事業) (晴気川)
継続・中止理由	<p>晴気川は小城市を流下し、牛津川に合流する河川で、小城市の中心部に近く、付近には県道多久牛津線や小学校、保育園等があり、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、平成2年7月の堤防決壊をはじめ、流下能力不足が原因で、流域に度々浸水被害をもたらしている。</p> <p>このため、流路是正及び狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ってきた。</p> <p>これまでの事業の進捗としては、令和元年度末までの進捗率で約35%(事業費ベース)となっている。</p> <p>地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれており、地域住民の安心・安全を確保するためには、当事業の継続が必要である。</p>
B/Cの算出方法	<p>改修前の堤防に対して計画規模の流量を発生させ越水した場合の浸水被害額を算出し、それをB(便益)とする。</p> <p>河川整備費及び50年間の維持管理費をC(費用)とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総便益額(現在価値化した総便益) <li style="padding-left: 20px;">B = 133,817百万円 ・総費用額(現在価値化した総費用) <li style="padding-left: 20px;">C = 8,776百万円 ・B/C = 133,817 / 8,776 = 15.25 費用対効果
備考	

令和2年度再評価対象箇所 (社会経済情勢の急激な変化等により見直しの必要が生じた事業)

番号	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	CO2削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課)	備考
	晴気川 河川整備交付金 事業(総合流域 防災事業)	流路是正、狭窄部 解消を行い、治水安 全度を向上し、流域 の浸水被害の軽減 を図る。	<p>全体事業費： 28.8億円 79.7億円</p> <p>事業期間： H15～H34 H15～R17</p> <p>改修延長：L=2,610m</p> <p>計画流量： 100 m³/s 180 m³/s</p> <p>計画治水安全度： 1/2 1/30</p> <p>事業内容： 掘削、護岸 L=2,510m 橋梁 5 7 橋、 堰 5(0) 9 基、 樋管 4 基、 サイフォン1基</p> <p>理由等： 計画治水安全度の1/2か ら1/30への変更に伴う河 道掘削、橋梁2橋及び堰9 基などの増工により、全体 事業費を増額し、併せて事 業期間も延長する。</p>	<p>西川橋下流100mにつ いては改修が完了して いる。</p> <p>橋梁4橋、サイフォン1基完 成。 (R01未進捗率 35.1%) (年平均進捗率3.75%)</p>	<p>(社会情勢の変化) ・受け入れ先である牛津川 の河川整備計画の変更に 伴う受け入れ流量の増加。</p> <p>(過去の災害実績) H2.7 浸水戸数 1,393戸 浸水面積 624ha</p> <p>(地域の状況) 大きな変化は無く、流域 には小学校や幼稚園等が存 在する。</p>	<p>最新のマニュアル に基づき、費用対効 果(B/C)を算定した。</p> <p>・総便 益(一般資産被害 額・農作物被害 額・公共土木施設 等被害額等) B=133,817百万円 ・総費用額 C=8,776百万円 ・現在(B/C) 15.25</p> <p>理由等： 計画治水安全度の 向上(1/2 1/30)に より便益額(B)が大 幅に増加し、費用対 効果が上昇。</p> <p>治水安全度1/2で のB/C=4.84(H30再評 価時)</p>	<p>(コスト削減策) ・掘削土を埋戻土 に利用するなど 建設副産物を有効 利用する。 ・護岸の裏込材に 再生クッキーパンを 使うなど再生材 を積極的に使用 する。</p>	<p>下記理由による事業計 画の変更。</p> <p>・受け入れ先である牛津 川の河川整備計画の変 更に伴う受け入れ流量 の増加。</p>	<p>継続 (理由) 社会経済 情勢の変化 等から、事 業の必要性 は一層高ま っており、 地域住民の 安全・安心 な暮らしに 寄与するた め、事業を 継続した い。</p>	

